

【暗証聖句】「それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが」ペトロの手紙一 1 章 06 節

【日・行き詰まりからの約束の地へ】

イスラエルの民がエジプトを脱出した後、「主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた」(出エジプト記 13 章 21 節)と、聖書に記録されています。私たちの人生において、主が常に先頭を歩み、雲や火の柱で象徴されるところの、一目で分かる目印をもって導いてくれるなら、どれほど良いことだろうと思います。迷うことなく、安心して進んでいくことができます。ところが、昼は雲の柱、夜は火の柱で導かれたその先に待っていたものは、それ以上先に進むことができない海が広がっていたのでした。前は海、後方からはエジプト軍が追いかけてきます。主を信じ、主に導かれて進んできた民たちは、あろうことか絶体絶命の状況に追い込まれてしまったのです。主が導く先を間違われたのでしょうか。

これと同様のことが、私たちの人生にも起こることがあります。主を信じ、主に導かれて、人生の道を歩んできたにも関わらず、大きな困難に直面するとき、私たちは戸惑います。しかし、主は常に私たちにとって最善をなす方です。試練や困難を通し信仰が試みられます。その試みに一つひとつ勝利していくごとに、新たな信仰のステージを上がっていくことになり、主が生きておられることを体験的に知るのでした。

絶体絶命かと思われるような状況の中、イスラエルの民の目の前で海の水が真っ二つに別れ、その間を歩いて向こう岸に行くことができたのでした。この奇跡は、映画になるほど、聖書に描かれている数々の奇跡の中で最もスケールの大きな奇跡です。出エジプト記 14 章 31 節を見ると、「イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる御業を見た。民は主を畏れ、主とその僕モーセを信じた」とあります。この目を疑うような奇跡を全員が体験し、彼らは改めて主を畏れ、主と主に遣わされたモーセを信じたのでした。

【月・苦い水】

出エジプト記 15 章 22～25 節「モーセはイスラエルを、葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒れ野に向かって、荒れ野を三日の間進んだが、水を得なかった。マラに着いたが、その水は苦くて飲むことができなかった。こういうわけで、その名はマラ(苦い)と呼ばれた。民はモーセに向かって、「何を飲んだらよいのか」と不平を言った。」

葦の海を渡り、エジプトを脱出した後、民たちは三日間荒れ野を進みます。この間の最大の問題は水がないということでした。一難去ってまた一難。ようやくマラと呼ばれる場所についたとき、そこには水はあったのですが、苦くてとても飲めたものではありませんでした。灼熱の砂漠で水がなければ、死に直結します。民はモーセに、「何を飲んだらよいのか」と不平を言います。人々の態度は、わずか3日で、賛美からつぶやきに変わったのでした。これが彼らの信仰の本性でした。

しかし、なぜ水は苦かったのでしょうか。神様がはじめは期待させておいて、その期待をあとから裏切るような感じでした。初めから水がないよりも、もっとショックは大きかったかもしれません。神様を信じて、奇跡を期待して祈ったのに、思い通りにいかないとき、信仰はいっきに弱くなり、神様に祈れなくなってしまうことがあります。しかし、それでもなお信じるのが信仰なのです。神様は再び民に試練と困難を与えることで、信仰を引き上げようとされたのです。モーセは主に向かって叫びます。すると主は彼に一本の木を示され、その木を苦い水の中に投げ込むと、何と水は甘くなったのでした。(出エジプト記 15 章 25 節)。水が甘くなる。イエス様は水をぶどう酒に変化させましたが、このような奇跡は質を変化させる奇跡を象徴しています。海の水を真っ二つに分かつのも奇跡ですが、私たち自身の質が変わる、神様のような愛の人へと変わる。これこそ最大の奇跡です。

その後、「エリムに着くと、そこには十二の泉があり」、ほっとできる時間が与えられるのですが、その後再び、水が無い状態が続きます。試練は人生の最後まで続くのです。それは天国に近づけば近づくほど、より一層、神の人へと私たちを作

り変えるためかもしれません。しかし、民たちは水が無いという試練を前に騒ぎ出し、暴動に発展しかねない状態でした。そのことをモーセは主に訴えると、出エジプト記 17 章 6 節で主はモーセにこう言われたのでした。「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセは、主が言われる通りに岩を打つと、岩から水が噴き出したのでした。この岩はイエス・キリストを表しています。キリストは打たれたその傷によって私たちを癒してくださったのです。

【火・荒れ野における大争闘】

サタンは私たちが精神的、あるいは肉体的に最も弱っているときに、誘惑に合わせるがあります。人は弱っている時に誘惑に陥りやすいからです。イエス様が 40 日の断食の後、サタンが誘惑してきたのもそれが理由でしょう。イエス様を誘惑に陥れることができれば、サタンの勝利であり、人類の救いの希望が消えてしまうのでした。しかし、逆に誘惑に勝利すれば、人類に救いの道を開くことができるのでした。イエス様が受けられた誘惑は、自分の益のために奇跡を行いたいという誘惑、神様の愛を試みる誘惑、そしてこの世の欲望に対する誘惑の 3 つでしたが、そのすべての誘惑で、イエス様は勝利し、サタンはイエス様のもとを離れていきました。イエス様がサタンの誘惑に勝利した秘訣は、み言葉でした。み言葉に書かれていることのみが正しいことであり、それ以外は間違った誘惑であると、すべてを退けられたのでした。このことからわかることは、み言葉をしっかり蓄えておくことが、サタンの誘惑に勝利するポイントであるということです。

【水・永遠の遺産】

ペトロの手紙一 1 章 6 節「…今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。」

キリスト教の信仰に入ると、幸せになり、試練や困難が来なくなると信じたくなるものです。ゆえに、思わぬ試練に遭遇するとき、信仰がぐらつき、神様を疑いそうになってしまうのです。しかし、聖書をしっかり学べば、その考えが間違いであることに気づかされます。聖書は、試練はないとは言わず、むしろ逆に「今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれません」と言っているのです。しかし、意味もなく試練が許されているわけではありません。明確な神様の目的があるのです。それは、試練によって信仰が本物と証明され、精錬されて金よりもはるかに尊いものとなり、イエス様が現れるときに主の称賛と光栄と誉れとがもたらされるためです。イエス様がおいでになるとき、この地上での試練などすべて忘れ、取るに足りないものであったと思うことでしょう。試練によって自分の信仰が強まっていくのを経験するとき、試練の意味が分かるようになります。これは一度限りのことではなく、何度も繰り返されながら、少しずつ信仰の階段を上っていくのです。

【木・火による試練】

大きな試練の中にある人に、アドバイスするのは簡単なことではありません。ありきたりな言葉では足りないと感じることでしょう。ましてや主のためにと信じて歩んできたのに、大きな試練に遭遇すれば、信仰がぐらついてしまうのも無理もないことです。そのような人たちに何と声を掛けたいのでしょうか。まずは、話を聞いてあげて、その痛みや悲しみを共感してあげることです。その上で、聖書が教える試練の意味を、み言葉から語って励ますことです。結局、最後にその人を強め、立ち上がらせるのは、その人が信じてきた神様の言葉しかないのです。そして、一緒に祈り、聖霊の導きに委ねることです。私たちは結論を急ぎ過ぎる傾向があります。もし主の御心に向かって歩んでいても、神様の時は私たちが考える時とは異なっている場合が少なくありません。さらに訓練させたいと、その道に至らせることも多いのです。あるいはまた、神様が考えておられる道と、私たちが望んでいる道が異なることも多いです。その可能性も考慮に入れながら、神様のさらなる導きを待つことです。